

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・教 育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 島根大学大学院教育学研究科・島根県教育委員会／鳥取県教育委員会
	事業名： (学び続ける教師を応援する)しまだい学校教員研修 (2024)
	研修等名：【NITS・島根大学コラボ研修】 (学び続ける教師を応援する)しまだい学校教員研修 (2024) — 教職に必要な素養に主として関するもの —
	開催日時：次頁の表を参照 開催場所：島根大学教育学部附属山陰教員研修センター (島根県松江市大輪町 416-4) 参加人数 (総数) と参加者の属性：延べ 59 人 (鳥取県 23 人、島根県 34 人、山陰県外 2 人)

目的：

教員免許更新制のもとで培われたコンテンツを厳選し、先進的事例の視察や書籍による情報収集をもとに、それらについて研修内容および実施方法を見直すことで、「限られた時間」の中で受講できる効果的な研修を整備する。具体的には、これまで島根大学において開講してきた教員免許状更新講習の中でも、評価の高かった講習 (2021 年度の講習満足度が 5 件法で 4.0 以上) を中心に、最新の教育課題に対応するための新規開設科目も含めて 34 研修を体系化し、山陰地方の教育関係者を主たる対象として開講する。なお本報告書では、教職に必要な素養に主として関する研修 8 講座を取り上げる。

内容：※全体発表の内容をテーブル起こしするなど、具体的に記載してください。

各講座 3 時間または 6 時間のプログラムを、対面／非対面 (同期型オンライン) を併用するハイブリッド (ハイフレックス型) で開催した。コミットメントが低下しがちなオンライン受講者に対しては、Microsoft Forms 等を利用して質問を受け付けることで、対面での講座と同様程度の双方向性を担保した。

教職に必要な素養を主として関する研修では、学校組織・教室空間の創造や、学校空間における教師の役割などに関する講座を開講した。学内外から各テーマの専門家である講師を招き、最先端の研究動向などを交えた講習を行い、受講者の実践に直結する学びを提供した。例えば、「学校教育における『多文化共生』」(坂口真康講師) では、共生に関する学術的議論を紐解きながら諸外国の多文化共生に係る実践例を参照することで、学校教育現場での教師による多文化共生実践の可能性を提示した。受講者は、それぞれの学校現場を念頭に置きながら、多様な背景を持つ児童生徒とどう向き合うかについて、ディスカッション等を通して思考を深めた。そのほかにも、教員や学校のあり方そのものを問い直す多種多様な講座を通して、受講者は日々の教育実践を振り返ることができた。

受講後、参加者はオンラインフォームを通じて課題や事後アンケートを提出した。一般的な研修とは異なり、本研修では受講者から提出された課題やレポートに対して、担当講師から直接フィードバックが得られる仕組みを整備した。

成果：※参加者の声など客観的な情報・データとともに記載して下さい。

◆研修終了後のアンケートで講習の平均満足度が 4.0 以上 (5 件法で「だいたい満足した」又は「満足した」と回答) だった講習は 7/8 講座 (87.5%) であった。全 8 講座の満足度の平均は 4.38 であり、受講者全体の 84.9% が「満足」(「だいたい満足した」又は「満足した」) と回答した。

◆受講者の学びの一例は以下の通りであった。(受講者のワークシートより一部抜粋)

「先生のお話を聞くだけでなく参加者と意見交換をする中で有益な考え方に多く出会えることができました。新たな知見を手に入れることができましたと思います。多様性を受け入れ、共生する社会に向かって歩んでいく中で、学校現場で何をすべきかを考える良い時間となりました。」「現在、向き合っている児童や保護者のことを思い浮かべながら、2 学期の関わり方や自分自身の目標設定などを改めてすることができました。」「オンラインからストレスなく参加でき、内容も充実していました。参考文献を案内していただき、早速いくつか購入しようと思います。」「今日の研修では、自分自身への問い直しもあり、学校教育について改めて考える良い機会となりました。前提を崩して見方を変えることにより見えてくるものがありました。」

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

本研修は、教師の力量形成・深化の過程において「新しく知り、慣れていく過程」や「意味付けや捉え直しを通じて、実践を発展させる過程」に位置づくものであったと考えられる。オンライン研修の実施方法として、主として Zoom を採用したことで、対話を通じた学びの場面が多くみられたことは評価できる。一方で、接続環境等で困難を抱える受講者が一定数存在したことは課題である。また、既存の研修では一般的に課題やレポートの提出で研修を終えるものが多かったが、本事業で実施する研修では、受講者から提出された課題やレポートに対して、担当講師からフィードバックを行った。これによって受講者の学びが「豊かな気付きが醸成される学び」となる可能性が大きくなったと考えられる。

アイデアや工夫したこと： ※実際の様子がより分かるよう、必要に応じて写真や図を用いて説明してください。

- ◆日常的に利用されている割合が高く、ICT に関する条件整備が十分でない地域においても受講障壁が小さいと考えられる、YouTube Live を実施方法に採用することで、受講者の環境に配慮した研修を実施した。
- ◆受講者が担当講師から直接フィードバックを得られることで、受講者の学びが深化し、教師の学び続けるサイクルの駆動を促進することができた。

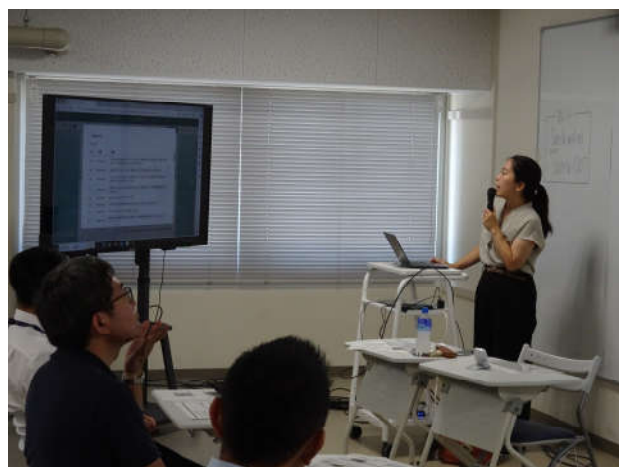
表 開講研修一覧

○教職に必要な素養に主として関する研修

研修日	研修時刻	講座の名称	担当講師	実施形態	受講者数
7月22日(月)	9:00～16:15	教師の働き方改革～研究の現場との交流を通して考える～	上地 香杜	ハイフレックス	10
7月23日(火)	13:30～16:45	「宇宙」を素材としたインクルーシブな探究活動	香川 奈緒美	対面	4
7月25日(木)	9:00～16:15	多様性と共に生きる学校について考える	津多 成輔 齋藤 英明	対面	5
8月5日(月)	13:00～16:45	教師の多様性を活かすための学校の変革とリーダーの役割	熊丸 真太郎	Zoom	9
8月19日(月)	13:30～16:45	学校の組織マネジメントと危機管理	小早川倫美	対面	7
8月19日(月)	9:00～12:15	チーム学校の可能性を拓く	木下 公明	対面	16
10月7日(月)	8:40～12:25	学校教育における「多文化共生」	坂口 真康	Zoom	4
10月24日(月)	13:00～16:45	教室空間におけるインクルージョン	羽田野真帆	Zoom	4



グループワークを交えた研修の様子



Microsoft Forms を使用した遠方参加者と講師のやりとりの様子